

6年生道徳授業 「光をともした魔法の薬」(探求する意欲)

1.ねらい

真理を求めて探求を続け、よりよい生き方を築いていこうとする考えを深める。

2.あらすじ

2015年にノーベル医学生理学賞を受賞した大村 智さん。「楽な道を行くと、本当のいい人生にならない」と自分に言い聞かせ、研究を続けます。何度も失敗しながら、魔法の薬であるイベルメクチンにたどり着きました。

3.授業の様子

【1組】

大村さんの姿から、あきらめない気持ちやチャレンジを続ける大切さを学びました。多くの子どもが、今までの自分の生活を見直し、前を向いて進み出す力をもらったようでした。



【子どもたちの感想】

- ・いつも何回か失敗したら「もう良いや」と思ってあきらめてたから、あきらめないようにする。
- ・人のやり方を真似するのもいいけれど、まずは自分で考えて答えややり方を見つけてみようと思う。
- ・大村先生は、「人の役に立つ」ということを意識していたので、学校などで、下級生のために役立ちたいと思った。
- ・「成功した人は、人よりも倍も3倍も失敗している。」という言葉聞き、私も失敗しても何回もチャレンジして成功させたいと思った。また、大村先生のように人のためになるようなことをしたいと思う。

【2組】

大村さんの生き方と自分自身を比べ、前向きに行動していこうとする姿勢が発言や記述に見られました。ばく大な利益の特許権を手放して多くの



人々を救った大村さんの姿勢に驚き、感心していました。

【子どもたちの感想】

- ・大村さんを見習って色々なことに挑戦し、失敗したら自分に「何回失敗してもあきらめない」と言い聞かせていきたい。
- ・これからは楽な道ばかりではなく、厳しい道にもチャレンジしようと思った。
- ・これからは自分のためだけでなく、少しでもだれかの役に立てるようにがんばりたい。大きなことじゃなくても、少しずつがんばりたい。
- ・自分の利益よりも人のことを優先する大村さんの生き方はすごいと思った。友達や周りの人の気持ちを考えることに生かしていきたい。

4.お家の方へ

この学習は、ノーベル医学生理学賞を受賞した大村 智さんの、イベルメクチンを発見するまでのチャレンジを題材にしたものです。大村さんの人間の健康にとって役立つものを探り出していくという信念から根気よく研究を進めていく姿勢、さらに年間2億人以上を感染症から救ったイベルメクチンの開発という偉業を紹介されています。真理を求め、物事の本質を求めていこうとする大村さんの生き方は、子どもたちにとって大きな感銘を与えました。山梨県出身者でもある大村さんに対して、子どもたちは「遠くの偉い人」の話ではなく、親しみを感じている様子が感じられました。